

コーヒー

寒い日が続きますが、温かいコーヒーを飲むと体が暖まってほっとしますね。コーヒーがよく飲まれる時期というのはあるのでしょうか。

総務省の家計調査のデータから近年の京都市の世帯におけるコーヒーへの支出金額の月別の推移を見てみると、夏場に少し落ち込み、10月～12月頃にかけてぐっと増えているのがわかります（図1）。

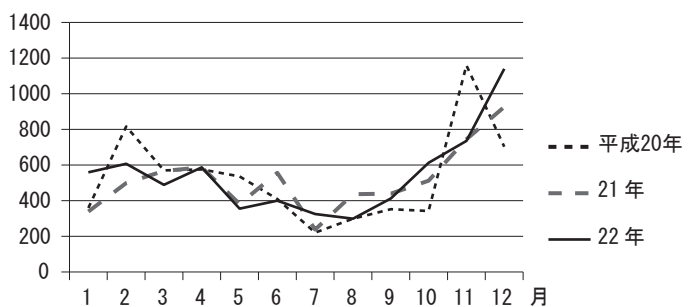
同じ家計調査の都道府県庁所在市及び政令指定都市別ランキングによると、コーヒーについての1世帯当たり年間の支出金額は京都市が4位となっています（表1）。

また、コーヒー以外にも含む喫茶代への支出でも京都市は8位と上位に入っています（表2）。

表1 コーヒーへの1世帯当たり年間支出金額
(平成20～22年平均)

		金額 (円)
全国		4,891
1位	金沢市	7,130
2位	奈良市	6,774
3位	盛岡市	6,770
4位	京都市	6,363
5位	徳島市	6,236
6位	神戸市	6,127
7位	札幌市	6,114
8位	仙台市	6,076
9位	松山市	6,006
10位	鳥取市	6,000

図1 コーヒーへの1世帯当たり支出金額
(平成20～22年 京都市)



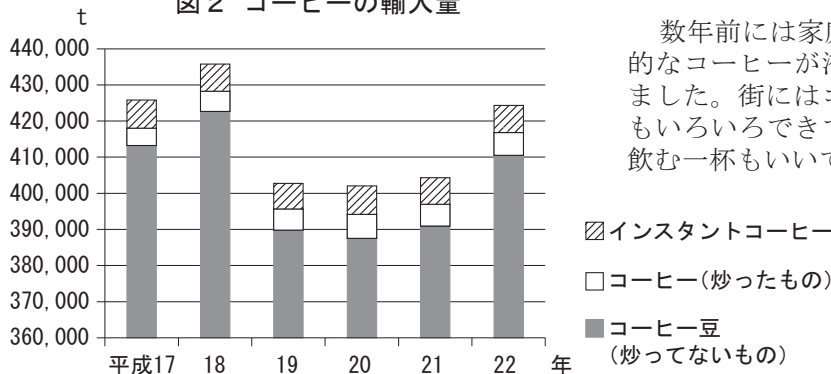
資料：総務省「家計調査（二人以上の世帯）」

表2 喫茶代への1世帯当たり年間支出金額
(平成20～22年平均)

		金額 (円)
全国		5,181
1位	岐阜市	14,110
2位	名古屋市	14,016
3位	東京都区部	8,039
4位	神戸市	7,546
5位	横浜市	6,738
6位	川崎市	6,577
7位	奈良市	6,469
8位	京都市	6,274
9位	大阪市	6,045
10位	さいたま市	5,942

次にコーヒーの輸入量の推移をみてみましょう。生豆、炒ったもの、インスタントコーヒーの3種類でみると、大半を生豆が占めています。生豆の輸入量は平成18年がピークで19年に減少しましたが、ここ数年また増加しつつあります（図2）。

図2 コーヒーの輸入量



資料：財務省「貿易統計」

数年前には家庭でも手軽にエスプレッソなどの本格的なコーヒーが淹れられる製品が発売され話題になりました。街にはコーヒー豆や淹れ方にこだわるカフェもいろいろできています。昔ながらの静かな喫茶店で飲む一杯もいいですね。

今年の冬は節電で皆さんいろいろ工夫されていることと思いますが、飲み物で暖まるのもいいかもしれませんね。